

# 日本一般用医薬品連合会長に (株)廣貫堂会長、(一社)全国配置薬協会会長塩井保彦氏就任 配置薬議員連盟会長に野上浩太郎参院議員が就任 全配協は議連へ要望書提出（伝統薬製造への配慮等）

(一社)日本置き薬協会

5月20日、日本一般用医薬品連合会は、新会長に(株)廣貫堂代表取締役会長、(一社)全国配置薬協会会長の塩井保彦氏が就任したと発表した。

同協会は加盟5協会（日本OTC医薬品協会、日本医薬品直販メーカー協議会、日本家庭薬協会、日本漢方生薬製剤協会、(一社)全国配置薬協会）からなる連合体として設立され、生活者の健康寿命の延伸やセルフメディケーション推進のために加盟5協会と一体となって共通の課題に取り組み、行政や関連団体との連携を深め、生活者の健康への願いに寄り添い、一般用医薬品市場の国内外の更なる活性化を図っている。以下の文面は5月17日北日本新聞掲載記事を抜粋転載した。

16日に塩井氏が会長を務める全国配置薬協会が自民党配置薬議員連盟に対し、配置薬の供給体制の確保に向けた要望書を提出した。伝統的な生薬製剤が安定的製造・販売できるよう配慮を求めた。要望では1961年の薬事法施行前から製造されている伝統的な生薬製剤などについて、現行の管理基準でも安定的に製造販売ができるよう、試験方法や規格で配慮するよう求めた。製造販売に必要な承認書の変更行政に届ける際の事前の相談窓口設置も盛り込んだ。

要望書提出に先立ち、配置薬議員連盟総会が国会内で開かれ、鴨下一郎元衆議院議員の会長退任に伴い、野上浩太郎参議院議員（富山県選挙区、菅内閣農水大臣、現参議院幹事長代行）を新会長に選んだ。事務局長だった野上氏の後任には橋慶一郎衆議院議員（富山県第3区）が就いた。

野上氏は綿貫民輔元衆議院議長や長勢甚遠元法相が会長を歴任していると紹介し「身が引き締まる思い。配置薬の品質管理の徹底を図り、安定供給していかなければならない。全力で務めていく」と挨拶した。

要望書を手渡す際、塩井全配協会会長は野上配置薬議連会長へ「薬業を継続・拡大し、国民のセルフメディケーション推進や医療費削減に向けた役割を果たしていきたい」と述べた。

医薬品業界は品質管理を巡る不祥事が相次いでいる。塩井氏が会長を務める(株)廣貫堂も2021年10月に不適切な製造が明らかになり、自主回収や生産の停止で配置薬販売業への影響が長期化している。

業界内では塩井氏が不適正製造発覚後も協会会長を続けていることに疑問を持つ声も出ている。県内の医薬品メーカーの役員は「安全、品質を確保するための法律がある。不適正製造した会社のトップが法を見直せというのはいかがか」と語った。

なお、富山めぐみ製薬(株)は5月25日付けで笹山敬輔氏から石黒広一氏への代表取締役交代の発表を行った。廣貫堂の配置向け製品の卸営業を担う同社は、製品納入が未だにされず大幅な売上減に陥っているが、めぐみ製薬設立5年目の節目として共同参画する大協薬品工業社長に移譲された。

配置薬議員連盟	最高顧問	長勢甚遠、鴨下一郎		
(令和4年度)	会長	野上浩太郎	副会長	鈴木俊一、田村慶久、高市早苗、高木毅
	幹事長	藤井基之	副幹事長	福岡資麿
	事務局長	橋慶一郎	事務局次長	小倉将信、堀井巖